

水産行政の立場から見た 海女振興の課題

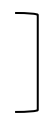
三重県農林水産部 水産資源・経営課
水産増殖班 清水 砂帆子

三重県の海女漁業振興

○「海女」の重要性・希少性が一般(外向き)に認識され始めたのは最近

2013年 NHKドラマ「あまちゃん」

2015年 伊勢志摩サミット



海女が頻繁にメディア露出

○県施策として海女漁業の重要性の認識

● 他の栽培対象種と同様、漁業者のための施策(資源の増殖)として、昭和57年からアワビ種苗の放流を実施

海女

● 昭和59～平成20年度にかけて、4年ごとに「あま漁業実態調査」を実施

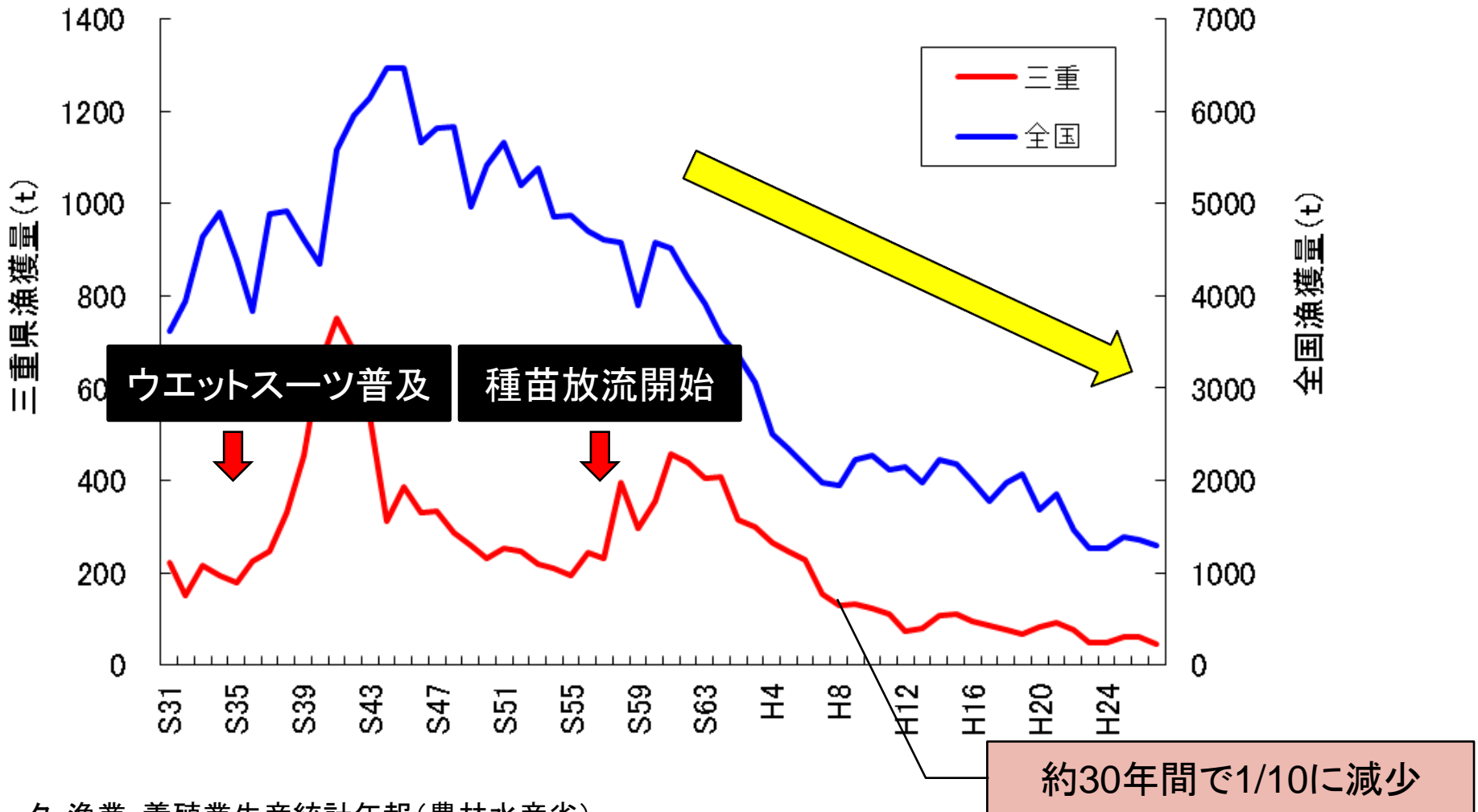
就業者数、漁獲量・金額、年齢、出漁日数・時間等

→ 約30年前から海女漁業振興(漁獲物を対象)が行われてきている

三重県の海女漁業

○アワビ漁獲量の推移

アワビ漁獲量の推移



データ: 漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)

三重県の海女漁業

○30年も放流しているのにアワビの漁獲量が増えない！

漁獲量の減少は三重県だけでなく、全国的なもの...原因は？

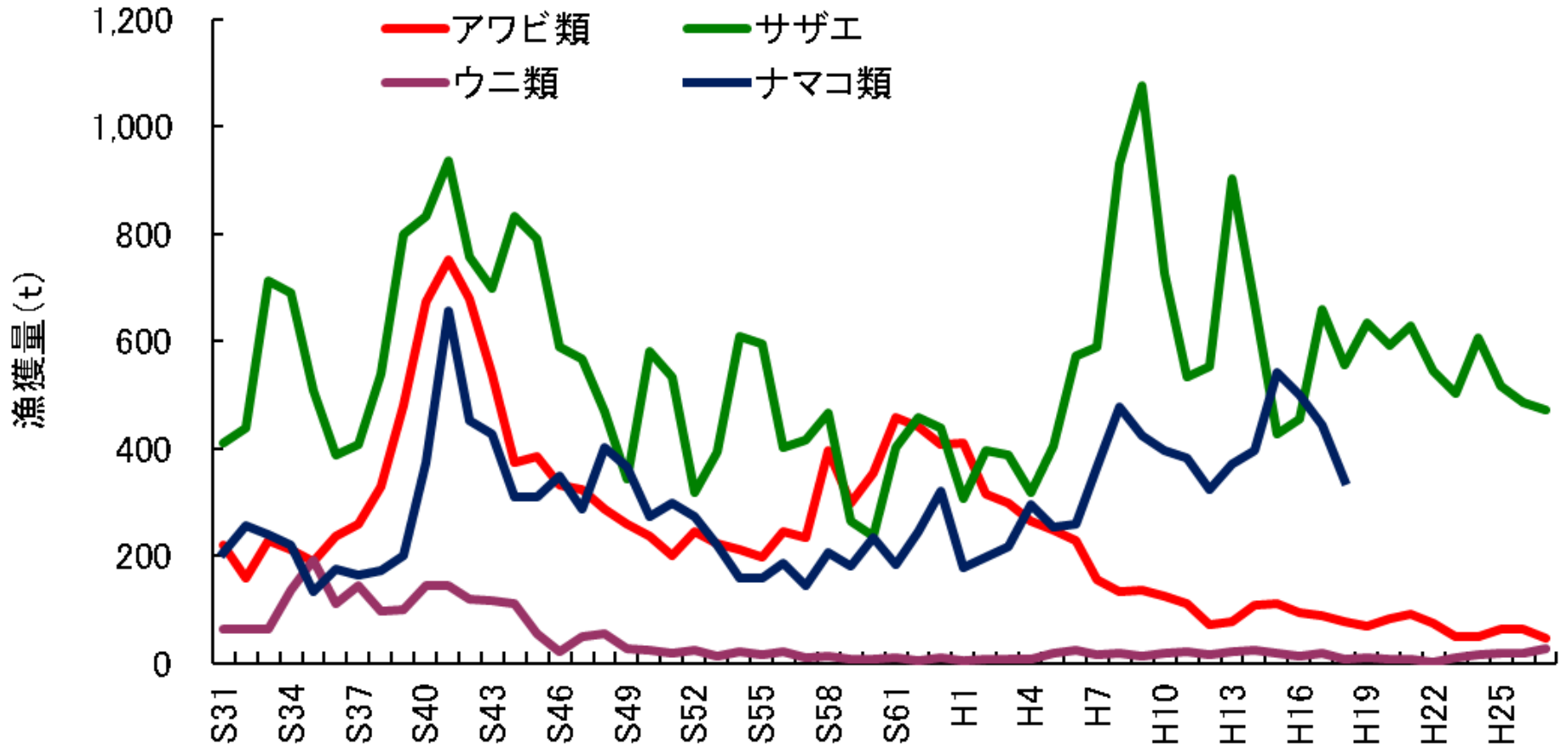
- 過剰な漁獲圧(通常の漁獲, 密漁)
- 親貝の分布密度低下(雌雄間の距離の拡大)→受精率の低下
- 水温の上昇による害敵生物の活発化, 海藻類の減少
- 海岸線の開発
- 内分泌攪乱物質

→ 全国で色々調べられてきたが, 結局のところ何が主な原因かはっきりしていない

三重県の海女漁業

○海女はアワビだけを漁獲しているわけではない

● サザエ, ナマコ, ウニ, 海藻等



データ: 漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省)

三重県の海女漁業

○問1「そもそも...海女がいなくなったら困るのか」

- 「水産物を海から取り上げ、供給する」というだけの点においては、必ずしも「海女」である必要はない？

○問2「なぜ「海女」をクローズアップして残す必要があるのか」

- 単なる「漁業」だけでなく、「文化(的価値)」が絡んでくる
- 漁村の存続

→「海女文化」とは海女の生業(漁業)があつてこそ

→水産業だけでなく、多方面の連携が必要

三重県の海女漁業振興 —アワビ漁獲量の減少—

○アワビ種苗放流

- 年間約70万個を放流
- 種苗生産施設
(三重県尾鷲栽培漁業センター, 南勢種苗センター)
- 現在の種苗生産量は施設容量上限

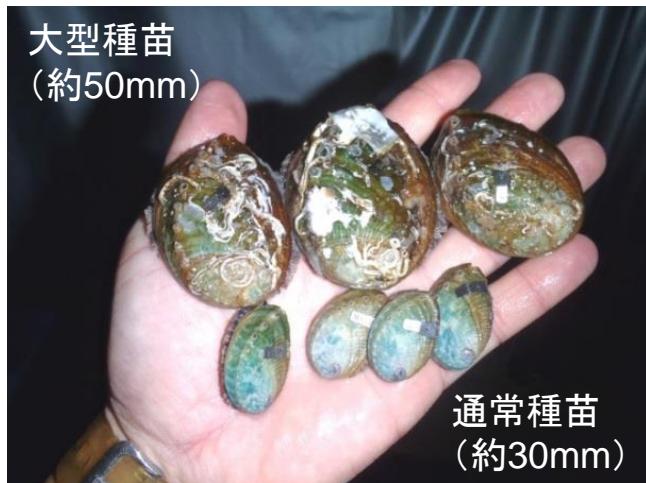
→ 施設の増強・人員の増加無しには種苗生産量増加は図れない現状

現状生産できる種苗をどうやって有効に活用していくかがポイント

三重県の海女漁業振興 —アワビ種苗放流+α—

○放流種苗の大型化(30mm→50mm)

- 放流効果2倍の試算
- 海女が実施可能な海面での中間育成手法の開発



○コンクリート板漁場の造成

- 回収率5%→10%の目標

→ 放流する種苗の回収率をいかにして高めるか

三重県の海女漁業振興 —アワビ種苗放流+α—

○コンクリート板造成漁場に放流したメガイアワビ種苗の追跡調査

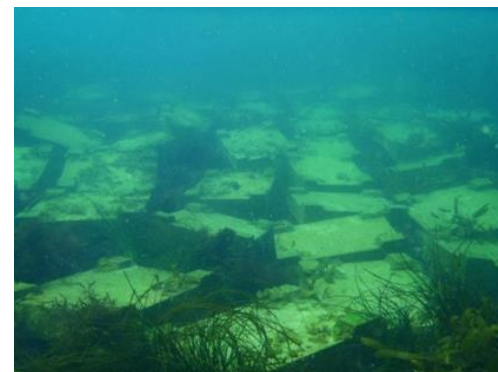
- 国崎地区コンクリート板漁場に平成26年12月に放流した5cm種苗
- 平成29年7月に漁獲調査(放流後2年7ヶ月)

(継続調査)

- 国崎地区:平成26年12月に放流した3cm種苗
- 国崎地区:平成27年12月に放流した3cm種苗
- 波切地区:平成26年12月に放流した3cm種苗

○コンクリート板造成漁場におけるクロアワビ放流試験

- 国崎地区の今年度漁獲区域にクロアワビ3cm種苗を放流



三重県の海女漁業振興 — 高齢化・担い手不足 —

○収入

- 収入が少ない・不安定なため、自分の子どもに勧めない
- 海女だけでは生活できないが、他に働き先がない

→ 新規参入者がすぐに稼げないところをどうやって支援するか

○地域の受け入れ体制

- 地域外からの受け入れ未経験
- 食事をするところ・住むところがない
- 漁業権の問題

→ 地域の受け入れ体制をどうやって整備していくか

三重県の海女漁業振興 — 高齢化・担い手不足 —

○収入の支援

- 国の新規就業者支援に関する事業の紹介

○地域の受け入れ体制構築等の支援

- 地域との対話により、その地域の実情に合った受け皿作りの支援
- 漁師塾が立ち上がった際には、人的・物資的支援

○就業フェア等

- 三重県漁業担い手対策協議会による就業フェアへのブース出展
- 同協議会によるHP「あしたの漁師応援サイト三重」での求人情報の掲載

三重県の海女漁業 —海女漁業以外の収入確保—

○海女漁獲物の高付加価値化

- 海女もん

○未利用資源の活用

- アカモク

○地域への集客

- 魅力の発信

三重県の海女漁業 —海女漁獲物の高付加価値化—

○海女もん

- 鳥羽・志摩地域の海女が獲ったことを保証する海女漁獲物ブランド

(県の取組:海女振興協議会との連携)

- 首都圏等のイベントで「海女もん」のPR
- 海女漁獲物の加工に関する研修会の開催



三重県の海女漁業 ー未利用資源の活用ー

○アカモク

- 褐藻ホンダワラ類, ヒジキに近縁
- 一年草で長さは10m以上になる
- 海女さんからアカモク駆除のニーズが多くあった



(県の取組)

- 食べられることが分かり, 海女の収入源になると着目
- 三重県水産研究所で刈り取り方や加工方法の研究
- 海女等の漁業者や商工会に働きかけ, 商品化



三重県の海女漁業 — 地域への集客 —

○海女の魅力とは

海女さんとしては...

- 特別なことはしていない
- 自然体



外からの目

- 自然と共生している, たくましい女性像
- 自然体なところが魅力的

→ 「海女」のストーリー性に惹かれている？

三重県の海女漁業 —地域への集客—

○魅力の発信

- 地域外の人に海女の魅力を知ってもらい、地域に人を呼び込む

(県の取組:海女振興協議会との連携)

- 首都圏等のイベントでPR
- 海女漁獲物を使った料理教室の開催

三重県の海女漁業振興

○水産行政として

- 放流アワビの回収率を高める取組
(種苗の大型化, 漁場造成等)
- アワビ親貝の保護
(禁漁区等の設定等)
- 海女漁獲物の高付加価値化
- 未利用資源の開拓・利用
- 海女漁・漁獲物の魅力発信



三重県の海女漁業振興

○まとめ

- 水産の方面からできることもあるが、水産だけでは海女漁業の振興はできない
(文化的価値の発信, 観光業との連携など)
- アワビのみにこだわらず, 色々な方向から取り組むことが大事
(アワビ以外の資源の利用, 高付加価値化など)
- 水産－教育(文化)－観光が連携していくことが大事
- 何より海女さん自身の主体的な取組が大事

→ 地域と連携し, 多様な方向から海女漁業振興を図っていく必要がある